

第41回全史料協全国(秋田)大会を終えて

大仙市総務部総務課 福原 勝人

1 転機

「平成27年の全史料協全国大会は、秋田でやることになりそうだ。」

その連絡は、平成25年のある日突然入りました。お名前は取えて伏せますが、日頃、何くれとなく当市のアーカイブズ事業に御指導、御助言を頂いている方からの一本の電話は、何かが大きく動き始めたことを確信させるものでした。

平成19年度から取り組んでいた当市のアーカイブズ事業でしたが、その後の中途半端な事業展開がヒト・モノ・カネの全てを無駄にしかねないという危惧から、事業凍結を市長に談判しようかというところまで追い詰められていました。

しかし、高橋（大会テーマ研究会報告者）が、常陸大宮市で社会資本整備総合交付金を活用して公文書館を設置するという情報を掴んでから状況は一変しました。この制度ならうちでも使えそうだ。諦めかけていた公文書館設置に向け、改めて廃校の一つに狙いを定めて市長と向き合いました。我々の熱意が通じたのか、市長の判断によって、思いがけず望み以上の旧双葉小学校を使えることにもなり、ようやくその後の展望が開けたのでした。

冒頭の知らせが入ったのは、それから間もなくでした。アーカイブズ事業に追い風が強く吹き始めたのです。

全史料協全国大会を大仙市で。その大それた考えは、すぐに我々の頭に浮かびました。

公文書館はおろか、その機能すら形になっていない地での全国大会開催という前代未聞の試みは、全史料協と秋田県の御英断によって実現しました。関係各位に心から感謝を申

し上げます。そして、遠路大仙市にお越し頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。

2 大会趣旨

大会開催に当たっては、大会趣旨説明にあるとおり、異例の大仙市開催を意義あるものにしようという大会・研修委員会各位の御配慮により、基礎自治体である市町村向けの内容に重点を置いたものにしていただきました。私どもはもとより、これから取り組もうとする、あるいは取り組まなければならないと感じている多くの関係者にとって、道標をお示しいただいたことはもちろん、心強い励ましにもなりました。開催のみならず、その内容にまで意を配していただき、本当にありがとうございました。

3 記念講演

大会開催に当たり開催地として心がけたことのひとつに、一般市民に対する事業啓発がありました。門戸は開かれているとはいえ、大会は基本的に会員向けであり、一般の方々に興味をもっていただくには一工夫必要だと感じていました。

そこで、群馬大会を参考にして、上川陽子代議士を講師に迎えた講演会を企画しました。

上川先生におかれましては、公務御多忙にもかかわらず御快諾を賜り、本当にありがとうございました。

また、講師をお願いするに当たり、仲介していただいた地元選出の御法川信英代議士にも、この場をお借りして感謝いたします。余談ですが、代議士と私は同級生です。彼がい



大仙市の公文書館予定地（旧双葉小学校）

てくれたことも幸運でした。

4 大会運営

今大会では2年ぶりに機関会員の事務局が復活しました。準備段階から円滑な運営ができたのは、経験豊富な群馬県立文書館に事務局を担っていただいた賜です。おかげで、委員会では、より大会の中身の検討に時間を割くことができ、充実した大会につながったものと感じています。

なお、大会運営に当たりましては、大仙市にせっかくお越しいただいた皆様に御不便がないように努めましたが、不行き届きの点も多々あったものと存じます。その点は、大会・研修委員会の責に帰すものではなく、大仙市の不手際です。どうかお許し願います。

5 そして今後

今、全国大会を終えて思うことは、来年大

仙市に公文書館ができて、それはようやく土俵に上がったに過ぎないということです。今後、より重要な中身をどうするかで真価が問われると身の引き締まる思いがしています。これまでは、安住の地となる公文書館が必要だと奔走してきましたが、それが安住の地となるには、まだまだ課題が山積しています。皆様には、今後とも大仙市のアーカイブズ事業に御指導を賜りますようお願い申し上げます。

全史料協としては、アーカイブズに対するハード、ソフト両面に国の財政的手当てがなされるよう、ときに政治的な活動も必要なのではないかとも感じています。

全史料協は、日本のアーカイブズにとって欠くことのできない存在だと思います。これからも会員皆が手を携えて、そして仲間を増やし、歴史資料の保存と利用に邁進することを願ってやみません。